



2022-23 年度
国際ロータリー会長
ジニファー・ジョーンズ

Weekly Report Niigata



2022～23 年度
新潟ロータリークラブ会長

石川 治老

新潟 RC 1 月第 4 例会 (2023.1.31) (Zoom 例会併催) No.3445

(1) ロータリー——ソング「それでこそロータリー」

ピアノ演奏

(2) 石川 治老会長挨拶

本日はお茶会などでお茶室に入る際に通る露地の庭についてお話ししたいと思います。

露地の庭はこれまでご紹介してきたいわば、見どころ盛りだくさんのテーマパークのような庭と違いもっと身近で、規模の小さいものが多いです。

街中や住居に隣接した場所に存在し、これまでの貴族や大名のものとは少し身近な庭園の一つと言えると思います。道路を意味する路地から名前の由来が来ていますが、もともとは茶室へと繋がる通路、といった意味でした。それが時を経て、露の地の露地と呼ばれるようになりました。

茶事や茶会は茶室で行われますが、茶室とは「俗な世界を切り離れた空間」といわれています。

その茶室へと続く露地の庭も「浮世の外道の道」といわれ、ただの茶室への通路ではなく、世俗の塵を徐々に払い、心身を清め、茶の湯に臨む準備の場でもあるのです。

そしてお茶室の作りが山里の風情を取り入れ、質素かつ素朴なお茶室が出来る中、庭も、まちなかに山里の風情を理想とした庭がつくられるようになりました。

その後露地庭は、江戸時代初期になって露地のかたちや名称も定まり、整然としたものになりました。

露地には大きく分けて3つの種類があります。一つは一重露地、そして二重露地と三重露地です。最も基本的な露地は二重露地で、中門ちゅうもんによって外露地と内露地のふたつの領域に分けられています。なぜこのようになっているのかは路地におけるお茶の流れを見るとわかります。

お茶事の客は、会場につくと寄付に最初に出向き、待合に進む前に、足袋を履き替えたり、荷物を整理したり、衣服などの身支度を整える場所です。寄付はお客様の集合場所で、床の間の掛物などを拝見し、白湯や紫蘇、霰などで香りをつけた、香煎をいただきます。

そしてお客がそろいますと、半東さん(お茶事をサポートする人)に促され、いよいよ露地に向かいます。そこには省略されている場合が多いですが露地口があります。

露地への入り口のことで、露地の周囲に塀をめぐらせ門をつけた、露地門を構えることもあります。

お客は待合の手がかりが開けられた露地口や露地門などで、露地草履などに履き替えて腰掛待合へと進みます。

飛石や延段で繋がれた露地を進み、腰掛待合向かい、外腰掛で亭主の迎付(むこうづけ)を待ちます。

お茶事の際外腰掛には、円座と煙草盆が、冬は手焙も出されており、そして外腰掛には棕櫚箒がかけられています。また露地には省略されている場合もありますが、雪隠があります。雪隠とは露地内のトイレのことで、腰掛の近くに設けられています。また現在雪隠は観賞用となっていて、茶事・茶会の際は雪隠をきれいにしておくことで、お客様をお迎えする準備してお待ちしておりましたというサインだったようです。

中門は二重露地、三重露地の場合にみられ、垣根とともに外露地と内露地と三重露地の場合は中露地を分ける役割をします。

亭主がお客を迎える、迎付(むこうづけ)の際は、亭主とお客が中門あたりで始めて対面することになります。

中門にはいくつか種類があり、最も簡素な形が枝折戸(しおりど)です、青竹などで枠とし、菱目に組んだ竹などを蕨縄(わらびなわ)などで結んで仕上げた開き戸です。次は揚簀戸(あげすど)または半葎(はじとみ)と言います。菱目に組んだ戸を吊り下げた門で、竹竿で突き上げて開閉します。

そして屋根付きの中門で、梅見(ばいけん)門もんです、屋根は杉皮葺(すぎかわぶき)で、扉は竹格子の両開き戸です。つづいて中潜(なかくぐり)です簡易な屋根付きの土塀のようなたちで、地面から40cmほどのある潜り口をまたいで超えます。

そしてそれらの中門にて亭主が迎付をし、そして内露地に入っていきます。そこには蹲踞(つくばい)があり席入りの前にお客が手と口を清めます。位置は主客の動線を考えて、茶室の近くに設置され、蹲踞には役石と言う物が配置されています。一番奥にある水を張ったものが手水鉢(ちょうずばち)で手や口を清めるために使い、柄杓(ひしゃく)を添えます。そしてその手前左右にあるのが、手燭石(てしょくいし)と湯桶石(ゆおけいし)で、手燭や湯桶を置きます。流派によって左右の位置が異なります。そして前石(ぜんせき)です手水鉢を使用する際に乗るための役石です。

蹲踞で手と口を清めたあとようやくお茶室に席入りします。そして露地庭の茶室の脇には塵穴(ちりあな)があります。

茶室の近くに設けられ、正面に向かって硯石のぞきいしを仕込み、青竹の塵箒(ちりばし)を添え、青葉を挿して清潔感を表します。一般に、広間には角型、小間は丸型の形のものを設けます。また茶室には蕨箒(わらびぼうき)を飾りとして掛けます。これも庭をきれいにし、お客を迎える準備が整っていますといった意味を持ちます。

また、露地には香りの強い木、実のなる木、毒やとげのある木などは避け、落葉樹と常緑樹のバランスを考えて配置します。

この様に露地庭はお茶事のための機能が満載で、その一つ一つに心を配りお客をもてなしているのです。

心配りの行き届いた庭は狭くても心地よく穏やかな気持ちにさせてくれます。

先人たちのお茶事の際の工夫の結晶ともいえる露地庭ですが、この精神は町家の坪庭や現在の日本家屋の庭に生きています。

(3) ビジターの紹介

・森田順一ガバナー補佐(新潟南 RC)

(4) 森田ガバナー補佐より IM 開催のご案内

・国際ロータリー第2560地区第二分区 IM を
2023年4月1日 ホテルオークラ新潟にて新潟南
クラブのホストにて開催致します。

(5) 各種ご寄付の発表

米山奨学会寄付発表(田中孝佳委員長)

石橋 正利君

(6) ニコニコボックス紹介(関川 博信委員長)

・森田順一ガバナー補佐 今日(4月1日)に行われます IM のお知らせに来ました。

・白勢仁士君、高橋康隆君、小山章司君 甲子園の春の選抜、神奈川代表に母校の慶應高校が決まりましたので。優勝したらまたニコニコします。

・石本隆太郎君 大変遅くなりましたが昨年11月26日に結婚記念日のお花が届きました。又、1月17日の新年家族例会で長寿祝をいただきありがとうございました。併せてニコニコさせていただきます。

・田中孝佳君 還暦、年男のお祝いをありがとうございました。これを機に健康に務め、自らのサステナビリティを高めていきたいと思っております。

・大澤強君 1月17日新年例会で「年男」と「還暦」のお祝いをいただきありがとうございました。元気に一年頑張りたいと思っております。妻もニコニコでダブルニコニコします。

・苅部雄一君 年男、還暦のお祝いありがとうございました。お菓子もお肉も大変おいしくいただきました。

(7) 卓話話「覚悟をもって二兎を追う」

新潟アルビレックスランニングクラブ

広田有紀選手



(8) 1月31日の例会参加率

会員数	算定対象者	出席者	参加率
88	85	61	71.76

Zoom 参加 14名

2月7日の例会予定

第一例会につき卓話なし

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>